

2-1 市民イベント「第3回 集まれ！市民のエコライフ&テクノロジー」

岡山大学廃棄物マネジメント研究センター

藤原 健史

1. 開催概要

日 時：2012年8月7日（火）9:30～16:45

場 所：岡山大学創立五十周年記念館

主 催：岡山大学廃棄物マネジメント研究センター

共 催：岡山市、岡山市エコ技術研究会

後 援：廃棄物資源循環学会中国四国支部

協 力：岡山大学環境部 ECOLO

2. プログラム

【午前の部】 『あつまれ！みらいのエコ博士！』

9:30-10:00 受付、開会式

10:00-11:30 工作、実験、クイズに挑戦！

11:30-11:45 表彰式、解散

【午後の部】 市民講演会 『もったいない』の心でライフスタイルを見直そう

13:30-13:40 開会挨拶、講演会の趣旨説明

13:40-15:50 講演 & 岡山県内の環境NPO団体の取組みのパネル見学

16:00-16:45 パネルディスカッション

3. 参加人数

【午前の部】 総人数 225名

① 一般参加者 74名（子供42名＋付添32名）

② 岡山大学学童クラブ参加者 49名（子供44名＋付添5名）

③ 出展協力団体 64名

④ 学生アルバイト 23名

⑤ 学官関係教職員 15名

【午後の部】 総人数 111＋ α 名

① 講演者、パネリスト 10名

② 一般参加者（関係者含む記帳者） 61名

③ 授業履修学生 36名

④ 学生アルバイト 4名

⑤ 記帳していない関係者 α 名

4. 学官プロジェクトにおける市民イベント開催の趣旨

学官パートナーシッププロジェクトでは、日本の廃棄物マネジメントの政策や技術を活かして、アジア都市の廃棄物問題に取り組むことを目的としています。日本のごみ処理は可燃物の焼却処理が中心ですが、アジアではこれまで焼却施設を建設することはほとんどありませんでした。なぜなら、都市ごみ中に食品の占める割合が大きい水分の含有量が高く、焼却に向かなかったからです。また、焼却施設は建設や運転のコストが高く、教育を受けた操作員も必要なため、日本ほど経済が豊かでない途上国にとって焼却の選択肢はありませんでした。そのため、アジアでごみ処理といえば埋立処分を指すのですが、その埋立処分も都市近隣では住民の反対により建設が難しくなっています。そこで、ごみの減量化やごみの資源化が重要になります。

ごみの清掃や減量化の意識は国それぞれです。川にごみを捨てる習慣があるために川が汚れている都市はたくさんあります。「ごみ分別？何のために？」と不思議がる人達が多くいたり、日本のごみ分別の話を聞いて「日本人は特別な民族か？」と聞いてくる人もいます。われわれ日本人が「あたりまえ」と思っている朝の分別ごみ出しの習慣は、他の国々にとっては当たり前ではないのです。

日本のごみ減量化や分別・資源化の取り組みは、ごみ処理能力を超えてのごみ発生が各地でトラブルを起こしたことがきっかけとなっています。そのうちに、市民団体が自発的に資源化できるごみを集めたり、行政と協力して分別収集を始めるなど、その活動が広く紹介されるようになりました。また、循環型社会を目指した法整備により、市民によるごみの分別排出、行政による分別収集の役割が明確になり、現在の廃棄物マネジメントに至るルールが敷かれました。その後、地方自治体の努力により施設整備や資源化を実施し、環境団体は市民側に立って地方自治体と協力して減量化の普及に勤めました。

このように、われわれの減量化や資源化に取り組む意識は自然に生まれたものではなく、育てられてきたものです。ですから、この意識を育てる行為を海外でも実践しなければ、そこに減量化や資源化が定着しないことは明らかです。そのためにも、われわれは日本で培った意識啓発の方法を海外に紹介し、その国に適合した意識啓発の方法を探す手伝いをすることが大切と考えます。なお、最近では市民が主体となるごみの減量化と再使用にかかわる活動を「2R」（リデュース、リユース）という標語で表し、リサイクルよりも大切な行為であることを意識させようとしています。

上で述べたごみ減量化や資源化の活動は、資源やエネルギーを有効に使うエコ活動と通じるところがあります。無駄な消費を抑えて効率よく使う、モノを使い切る、使ったモノを別の目的で使うなど、生活の中で限りあるものを大切に使うという意識は共通です。

廃棄物マネジメント研究センターではテーマを廃棄物だけでなくエネルギー・資源に広げ、環境学習の要素も取り込みながら、「集まれ！市民のエコライフ&エコテクノロジー」と題するイベントを、これまで2回開催してきました。岡山市や環境団体等のご協力を頂き、学官市民の体制で実施することを特徴としています。そして、平成24年度の第3回

イベントでは、午前と午後の2本立とし、午前の部は「集まれ！未来のエコ博士」と題して、小学生を対象に環境学習をテーマとした数々の体験、実験、展示を企画しました。また、午後には一般市民を対象として「もったいないの心でライフスタイルを見直そう」と題し、2Rについて活動している行政やNPO、民間の方々から講演をいただく講演会を開催します。

持続可能な発展を実現するためには、子供達への早い時期からの環境学習は不可欠です。企画側はイベントの準備をしながら、子供たちにエコライフの必要性をどのように教えたらよいかを考えます。そして、イベントを通じて子供たちの関心はなにか、その関心から学習教育にどのように発展させてゆけばよいかを分析したいと考えています。

本プロジェクトでは、毎年、日本語版と英語版の報告書を作成しその中でこの市民イベントを紹介しており、今年度もイベントの様子や成果がアジアの国々に紹介されます。われわれの体験がアジアのごみ減量やエコ活動に貢献できればと考えます。

